

令和 4 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6)

申請組織 管理栄養士のスキルアップを支援する会

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 本山 昇

統括責任者 役職名 准教授 氏名 河合潤子

課題名 現役管理栄養士から医療・介護施設患者の食支援を学ぶ

事業組織	役 割	氏 名	所属・役職名	役割分担
	統括責任	河合 潤子	生活科学部 准教授	会の運営、講師の対応
		松田 美樹	〃 助手	セミナーの準備

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

管理栄養士として医療・介護施設に就職するものの、早期に退職する学生も多い。既卒生のお話を聞くと、最初から順調に業務に入り切れていない様子が伺える。であれば、まずは本人がスムーズに本来業務に取り掛かることが大事である。そこで、若手既卒生（既卒 5 年までの管理栄養士）が直面する栄養管理業務や給食管理業務のお悩み事例を募り、講師である管理栄養士（経歴 20 年以上の既卒生）から解決に向けた道標を学ぶ。参加者はグループワークを通し、各職場の状況や困難事例の解決方法から管理栄養士の心構えと対処方法や経験を積むことの大切さを理解する。若手既卒生がこれらの課題解決の糸口を見つければ、業務へのモチベーションを取り戻すことができると考える。さらに先輩と繋がり、人間関係を築くことができれば、目標とする「将来、患者の食支援で活躍できる管理栄養士の育成」が進むと期待している。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

対象：学部生 5 名（4 年生）、既卒生 44 名（主に卒業後 5 年未満）
講師：経歴 20 年以上の病院管理栄養士
時期：①1 回目：R4 年 8 月 27 日午後 ②2 回目：R5 年 3 月 11 日午後
方法：学部生は各ゼミへ依頼し、既卒生は郵送にて（QR コード入力）募集した。
1 回目は、既卒生から送られた困難事例を基にタイトルを決め、講師に目的を理解して頂いたうえで進めた。臨床的知識を再度学んだうえで、各グループ（各人）がその対処方法のプランを立て検討した。具体的には、KJ 法を用いた。各自が書いたプランから参加者との意見を深め、さらに各グループごとに成果を発表した。嚥下困難食の対処方法は嚥下の仕組み、嚥下食の試食も行った。講師のコメントから、解決方法や解決に向けた道筋を理解したうえで、各自が解決方法を考えてプランを立てた。
2 回目（がんの栄養管理）は 3 月に実施予定であるが、1 回目と同様のスタイルで進める。ここでは、1 回目の結果報告（職場に戻りどのように食支援に活かしたか）を発表する時間も設けている。

3. 事業の成果（600 字～800 字程度で記述）

既卒生からの質問が多かった疾病 3 点を選択して講師に講義をお願いした。

① 経腸栄養の管理（早期栄養介入、重症患者に対する栄養介入など）

② パーキンソン病の栄養介入（嚥下調整食、嚥下の評価など）③がんの栄養管理

【経腸栄養の管理】

早期経腸栄養について症例検討をした。経腸栄養開始時期、目標エネルギー量、目標蛋白質量、投与方法、スピード、栄養剤の選択、投与栄養量など基本的な項目を抑え、各班に分かれ、病院での経験を踏まえ検討した。早期経腸は腸管機能を維持、吸収能を改善し、腎障害、合併症の減少というメリットがあることを理解した。

【パーキンソン病の栄養介入】

嚥下ピラミッドや疾病による嚥下障害の違いを学び実際の食事を試食した（水・ゼリー・肉じゃが）。嚥下食は嚥下ピラミッドでは、どの個所で、どのような形態で、口の中での状況を再度確認した。嚥下困難食が必要な疾病は数種類あるため、病態ごとの特徴を知り、各患者にあった嚥下調整食を提供する重要性和その食事の概念を理解した。

経腸栄養も嚥下困難食も一度は大学で学んでいる内容ばかりであるが、実際の患者を目の前にすると学んだ状況ばかりではない。わからないことも多く、グループに分かれての話し合いは各病院での事例をもとに話し合われた。今後、どのような患者を担当するかわからないが、より多くの経験やスキルを身に着けることで自信がつくと考えている。

【がんの栄養管理】

資料は配布されたが、上記の 2 題目で時間が費やされ講義をするところまでいかなかった。しかし、がんの栄養管理は誰も悩み苦しんでいることから、再度開催してほしいという依頼が多かった。そこで、4 年生の就職予定者が参加できるように、管理栄養士国家試験後の 3 月 11 日に行うこととした。幸い、前回の講師が快く受けていただいたことにより再開する事となった。

4. キーワード（本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載）

①経腸栄養の管理	②嚥下障害	③嚥下調整食	③ 嚥下の評価
④ がんの栄養管理	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

4 年生(5 人)と若年既卒生 23 人（参加率 52.3%）を対象にスキルアップセミナーを開催したが、4 年生と既卒生ではレベル差がかなりあり、現場経験有無のレベル差を実感した。専門用語の理解、症例の理解、まばゆいばかりの先輩をまじかに見て 4 年生は緊張感を味わったことと思われる。しかし、この緊張感を持って現場に赴くことが重要であり、勉強して同じレベルにまで頑張るという気持ちになることを期待している。今まで途中で退職する学生は、自分の不出来を理解せず、ただ職場の不満を述べていたようにも考える。自信を持ち強い心意気を持たないと職場の雰囲気押しつぶされることもあろう。この気概は自分で身に着けるしかないが、職場に送り出す前に医療職（医師・看護師）が行う宣誓の意味も今更ながら考えさせられる。

今後、卒業してからも大学に戻って学ぶ機会があれば、大学に対する帰属意識が高まり、自分も何らかの支援をしたいと考えるであろう。これら一連のシステムが構築されれば、さらに同窓会に繋がりを、「管理栄養士のスキルアップを支援する会」として別の形で継続できると期待している。

